

平成 26 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書Ⅰ
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

法人名	学校法人 武蔵野東学園
-----	-------------

概 要

モデルスクールの概要（平成 27 年 3 月 1 日現在）

	モデルスクール名	在籍者数	教職員数
1	武蔵野東第一幼稚園	229 名	20 名
2	武蔵野東第二幼稚園	372 名	37 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

学校法人である本園の特別支援教育の仕組みの根幹は、自閉症児のみの「少人数クラス」を用意していることである。特性に合わせ、情報のコントロールや視覚支援などを行い、身辺自立に向けて保育を行っている。安心できる環境の中、皆と一緒に取り組む楽しさや認められる喜びを得ながら、様々なバリエーションで通常の学級との交流を行っている。交流の時間の長さなども一人一人の実態に応じて設定している。

2. 取組の概要

合理的配慮協力員に、事前に本園を見学してもらい、自園の取組について話をした。その上で、基礎的環境整備、合理的配慮について平成 25 年度の内容を土台にし、追加や項目の変更などについて話し合いを行った。検討委員会での内容は、担任に伝えながら合理的配慮や基礎的環境整備の見直しを行ってきた。話し合いやディスカッションによって、本園で積み重ねてきたことを合理的配慮や基礎的環境整備という視点から意識化し、整理することができた。

合理的配慮については項目の精査や、記述が少ない項目に関して、本園の取組を評価してもらったことで、新たな視点が見え、援助の仕方を変えることができたり、新たな教材を作ったりすることができた。

ビデオによる記録に関しては、教員の保育の方法を振り返るいい機会にもなり、保育者が動き過ぎてないか、園児の発信を捉えられているかなどについて確認した。

3. 成果及び課題

【成果】

平成 26 年度の委託研究では、武蔵野東幼稚園の「生活療法」で行っている「混合教育」について「基礎的環境整備」「合理的配慮」を人との関係性について特化しながらまとめてきた。ビデオを撮り、会話分析を行って見えてきた点は 2 点ある。

1 点目は相手と互いに意思疎通することが難しいと言われている自閉症児が、ビデオを分析すると絵描き歌や歌遊びを通して保育者と楽しみを共有している様子が見られたことである。保育者が子供の視線や行動を観察し、言葉にしない対象児に声を掛け促したり、視線で意思の確認を続けてきたりしたことによって信頼関係が築くことができ、視線を交えて相手に関われるようになり、共同注意行動の獲得に至ることがわかった。

2 点目はコミュニケーションを保障する方法として、「物や身体への直接操作」と、子供へ選択肢を与えたり、発話に対して質問する「子供への明確化要請」という手段が今回の対象児にとっては有効的であるということが示唆されたことである。

平成 26 年度は合理的配慮協力員として他校の公立の幼稚園の先生にも参加してもらったことで、本園で整備した基礎的環境整備以外にも、新たな視点（公立の幼稚園の園長など）から見える基礎的環境整備と考えられることが見つけれ、昨年度に追記することができた。

また 50 周年を機に行った公開保育では、100 名を超える私立学校の教員に対し、自園の保育を伝える機会をもった。合理的配慮や基礎的環境整備の視点から他校の教員にも伝えることができ、学びになった。

2 年間の SCERTS の調査の結果について分析すると、保育者とやりとりしながら自己を表現できる「幸福感」の分野や、自分以外の他者からの投げ掛けに対し同調したり、反応したりすることができる「他者感」の部分の成長が他の分野に比べて高い伸びを示している。人との関わりによって、自分の情動を調整する力が、本園で伸びているのではないかとということが示唆されている。

【課題】

2 年間自園での合理的配慮と基礎的環境整備に関して私立幼稚園の教員へ発表する機会を持てたのは、とても有意義であった。しかし、その一方で、地域の小学校や幼稚園には伝える機会を持てていないのが現状である。27 年度は地域の幼稚園、小学校に発表する場を作ることで、より小学校への連携がスムーズになるように検討していきたい。

また、少人数クラスの子供の育ちを見える形にし、カリキュラム化していってみたいというアドバイスを合理的配慮協力員から受けた。写真を使いながらまとめつつ、より効果的な教材などについても考えていけたらと考えている。SCERTS の調査も継続していきエビデンスをしっかりと示し、自園の得意分野、課題なども分析していけたらと考えている。